

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に22字×33行、横書きで作成する。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号および住所）を記す。2枚目以降の記述形式は特に定めないが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設ける。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入する。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下とする。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 独立行政法人・動物衛生研究所 山本孝史」宛とする。

〔編集後記〕

食の安全・安心に対する消費者の関心は高まる一方です。しかし安全と安心は似て非なるものです。安全というのは、皮肉な言い方をすれば、現在の科学レベルでは危害要因が見出せない場合に安全というのであり、ひょっとしたら未だ明らかにされていない危害要因が含まれる可能性まで排除しているわけではありません。一方安心は心と書くように感じかたであり、主観的なものです。そして消費者にとっては、安心できるかどうか

重要なのです。

人間は自分で体験したものには安心感を持つといます。したがって、消費者に安心感をもってもらえる畜産物というのは、生産過程をすべてオープンにしていつでも消費者に見せられ、生産過程を疑似体験させられることが必要です。近年ノルウェー産の養殖魚が日本で消費を拡大していますが、その最大の要因は、生産・流通の過程をすべてオープンにして消費者の求めに応じて見学させていることにある、と輸入元は分析しています。

近頃、スローフードという言葉に耳にする機会が増えてきました。ホットドッグやハンバーガーなど、出来合いのファストフードに対するアンチテーゼとしてイタリアで生まれた新しい食の運動だということです。すなわち、スローフードというのは、良質の素材を用いて、素材の味を生かした料理を、時間をかけて作ろうという運動だということです。まさに米国流の合理主義に対するアンチテーゼであり、これからの消費者の方向性を先取りするものとして注目されます。

このような消費者の動きは、SPF豚にとっては絶好の追い風となるはずですが、いつでも消費者に見せられる養豚場から、いつも消費者に安心して食べてもらえるおいしい豚肉が生産されることを願ってやみません。

(山本)

「All About Swine」

第21号 2002年10月発行 定価1,500円
発行所 日本 S P F 豚 研 究 会
〒305-0856
つくば市観音台3-1-5
動物衛生研究所